



大野 岳

【学校教育目標】

**ふるさとを愛し、夢に向かってたくましく
挑戦する児童生徒の育成**

伊万里市立南波多郷学館

第 3 号

令和7年7月7日発行

文責 校長 多久島 一仁

地区中体連、最後まで頑張りました！

6月28日（土）、29日（日）に地区中体連があり、バレーボール部、ソフトテニス部、野球部が出場しました。いずれも入賞することはできませんでしたが、梅雨明けの猛暑の中、素晴らしい戦いが繰り広げられました。

私はソフトテニス会場の会長だったのですが、強い相手とも互角にラリーをしたり、0-2の劣勢から追いついたりと成長を感じるプレイがいくつも見られました。

郷学館はどの部も人数が少なく、不利な面はあったと思いますが、今の郷学館のベストメンバーで立派にプレイしたと思います。

顧問の先生方からの各部の頑張りについて紹介します。

【バレーボール部】

- ・ 「簡単に落とさないよ」とか「サーブ、しっかり入れていこう」など、チーム内の声掛けが増えた。
- ・ ボールを最後まで追うあきらめないプレイが増えた。
- ・ チームのムードがよくなった。

【ソフトテニス部】

- ・ どんな時もペア同士でポジティブな声を掛け合い、粘り強く戦った。
- ・ どんなボールでもあきらめず、必死に追いかけ、打ち返そうとしていた。
- ・ 試合に出場していない生徒も、選手の体力を温存するために率先して審判をしてくれたり、うちわであおいだり、水筒を持って行ったりサポートしてくれた。

【野球部】

- ・ Aさん：南波多のキャプテンとして、最後まで声を掛け合ってプレイできた。打撃でも4番として打線を引っ張った。
- ・ Bさん：開幕試合で強豪相手にエースとして先発して堂々と投げた。打撃でも得点に絡むヒットを打ち、チームを盛り上げた。
- ・ 大会前の練習試合では大差で負けていたが、2-6という試合で、最後の試合でこれまでに最高の試合を見せてくれた。

大坪赤門南波多野球部、全国大会へ！

全日本学童軟式野球佐賀大会決勝で、大坪赤門南波多野球部が3回に取った1点を守り抜き、初優勝しました。校長室への報告会で選手たちは、「チーム一丸となって戦うことができた」「全国でも2本以上ヒットが打てるようにしたい」「一つ一つ勝ち上がって

優勝を目指したい」と、試合を振り返っての感想や全国大会への抱負を語ってくれました。

チームは8月11日から新潟県で開かれる全国大会に出場します。これまで支えてくださ

った方々への感謝の気持ちを忘れず、全国でも力強く戦ってくれることを期待しています。



これぞ芸術！迫力ある神楽！

6月16日（月）にスクールコンサートで神楽を鑑賞しました。この事業は、佐賀県教職員互助会と弘済会佐賀支部が主催して開催されたもので、5～9年生が参加しました。

神楽というのは、日本の神道における神事芸能の一つで、神に奉納される歌や舞のことです。古事記や日本書紀に記された天岩戸隠れの段で、天鈿女命（あまのうずめのみこと）が天照大神（あまてらすおおかみ）を誘い出すために岩戸の前で舞ったことが起源とされています。佐賀神楽では演ずる「舞」と演者に合わせて太鼓や笛などでリズムをとる「奏楽」が奏でる音が互いに呼吸を合わせることを大事にしているそうです。最初に傘やこま、玉すだれを使った大道芸を披露され、その後、舞が演じられました。

大道芸では、ただこまを回すだけでなく、写真のように細い棒の先で斜めに回るのが不思議でした。また、神楽は立つ、座る、歩く、回るなどの一つ一つに基本的な動きがあり、特に「歩く」という動作は、スムーズな体重移動や体の軸をぶらさないようにすることが求められるそうです。また、衣装や面などは一つ100万円ほどするらしく、丁寧に時間をかけて作られたのがよく分かりました。

児童生徒の皆さんが日本文化とその芸術性の高さを感じられる素敵な時間となりました。

